

時間割コード	G1B20003		開講年度	2026				
授業題目	科学と政治の日本戦後史					担当教員	小池 洋平	
英文授業名	History of Science and Politics							
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限		対象学生	全
講義室	東洋計器講義室（20番講義室）			授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	大学D P							
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力					⇔	科学という営みと社会の結びつきを歴史的を理解し、現代で生じている科学的問題を適切に把握し、それを他者に表現できるようにする。	
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働							
(3)全学横断特別教育プログラム	グローバルコア人材養成コース ・ B A S I C (日本理解)							
(4)授業の概要	この授業では、科学という営みがどのように展開してきたのかを検討した上で、日本の近代以降における科学の歴史を社会や政策との関係で考えていきます。そして、科学と社会のあるべき関係性をみなさんと探究します。 科学は私たちの生活を「豊か」にしましたが、逆に、公害問題や原発問題など「人間の生存」と直結する深刻な問題も引き起こしてきました。こういった問題にどのような歴史的背景があるのか、そして、今後の課題は何であるのか。これらを整理することで、科学と社会のあるべき関係性を考えていきます。 ※ 2026年度は「対面回」と「オンライン回」が混在します。特に「（4）授業計画」と「（8）履修上の注意」欄をご確認ください。							
(5)授業のキーワード	科学の歴史 科学政策 科学と政治 科学と民主主義 科学と司法 科学の社会史 STS							
(6)授業計画	第1回 イントロダクション：なぜ科学と政治の歴史を学ぶのか？【対面】 第2回 科学とは何か（1）古代ギリシアの知【対面】 第3回 科学とは何か（2）中世・近代の知【オンライン】 第4回 科学の制度化（1）科学と大学教育【対面】 第5回 科学の制度化（2）第一次世界大戦と科学【対面】 第6回 科学の体制化：第二次世界大戦と科学【オンライン】 第7回 科学のポスト体制化（1）冷戦と科学【対面】 第8回 科学のポスト体制化（2）科学批判の時代【オンライン】 第9回 科学と人間の生存を巡る問題（1）公害問題【対面】 第10回 科学と人間の生存を巡る問題（2）ハンセン病問題【オンライン】 第11回 科学と人間の生存を巡る問題（3）原発問題【対面】 第12回 科学をコントロールする規範を求めて（1）民主的コントロール【オンライン】 第13回 科学をコントロールする規範を求めて（2）科学ジャーナリズム【対面】 第14回 科学をコントロールする規範を求めて（3）司法的コントロール【オンライン】 第15回 これからの科学と社会を考えるために／授業アンケート【対面】							
(7)成績評価の方法	平常点（45点満点）と期末レポート（55点満点）を総合して成績を評価する。 ◇ 平常点の評価方法 授業中に問題を提示するので、それに対する自分の考えをeALPS上で回答してもらう。単に出席しているだけでは加点しないので注意すること。 ◇ 期末レポートの評価方法 科学と政治が交錯する問題を1つ取り上げ、その問題の歴史的背景を2500字程度でまとめる。							
(8)成績評価の基準	下記の基準に従い、合計点が90点以上で「卓越している」、80-89点で「かなり上にある」、70-79点で「やや上にある」、60-69点で「その水準にある」と評価する。 ◇ 平常点の評価基準 授業中に提示された問題について、自らの考えを主体的に組み立て、それを他者に提示できている（各回3点×15回） ◇ レポートの評価基準 ・学術的レポートとしての作法を守ることができている。 ・学術的レポートとして適切な表現をすることができている。 ・論理的かつ説得的な論証をすることができている。 ※ 配点の詳細は授業内で説明します。							
(9)事前事後学習の内容	この授業は90時間の学修を必要とする内容です。したがって、60時間の時間外学修が必須となります。事前事後学習として具体的には、①科学技術に関するニュースのチェック（1時間30分）、②講義で紹介された文献の読解（毎週2時間）、③レポート作成のための準備（毎週2時間）が求められます。							

(10)履修上の注意	・この授業では、科学理論それ自体の知識を持っていなくても問題ありません。そのため、高校時代の文系／理系関係なく受講していただければと思います。 ■ 2026年度の注意事項 ・この講義は【対面回】と【オンライン回】が混在します。どの回が対面／オンラインかは、上の授業計画をご確認ください。 ・【対面回】については、シラバスに掲示された講義室にて、通常の講義を行います。 ・【オンライン回】については、eALPSに動画を掲載するので、そちらを視聴してください。 ・受講方法は自由に選べませんので、ご注意ください。
(11)質問,相談への対応	・授業前後に教室で質問を受け付けます。気軽に声をかけてください。 ・その他の時間に質問や相談をしたい場合は、メールにて受け付けます。メールアドレスはeALPSに掲載します。
(12)授業への出席	この授業は、すべての回に出席することを前提とします。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「信州大学における授業の出席に関する要綱」第4が定める「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、共通教育履修案内に記載されている方法により補充を受けるための申請を行ってください。 その上で、eALPSに掲載されている連絡先にメールを送り、補充の指示を受けてください。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	河村豊ほか,未来を考えるための科学史・技術史入門,4779307082,北樹出版,2023年,2750円。 塚原修一編,新通史 日本の科学技術 第1巻,4562075368,原書房,2026年,33000円。 古川安,科学の社会史,4480098836,筑摩書房,2018年,1430円。 廣重徹,科学の社会史(上),4006000936,岩波書店,2002年。 廣重徹,科学の社会史(下),4006000944,岩波書店,2003年。 村上陽一郎,科学史・科学哲学入門,4065228395,講談社,2021年,924円。 日本科学史学会編,科学史事典,4621306065,丸善出版,2021年,24200円。 ウィリアム・バイナム,若い読者のための科学史,978-4799109199,すばる舎,2020年,3520円。 Andrew Ede & Lesley B. Cormack, A History of Science in Society (Volumel),4th ed.,9781487524647,Univ. of Toronto Pr. Higher education,2022年,6318円。 Andrew Ede & Lesley B. Cormack, A History of Science in Society (Volume2),4th ed.,9781487524661,Univ. of Toronto Pr. Higher education,2022年,9474円。